

感動一点の場

『老人と犬』

1981年 小川原 脩 画



夏の夕涼み、花火、晩酌…夜の時間の過ごし方が楽しくなる季節。夜の光景の作品を探してみた。犬の群れが、夕闇の中を飛ぶように駆け巡る。老人の脳裏に浮かぶ光景なのだろうか。

見事な白髪と髭をたくわえた、老人がひとり、思いにふけるようにうつむいて座っている。大ぶりのたくましい掌が印象に残る。この風貌の人物にはモデルがいると言われているが、特定の人物を超えた、あらゆる人が持ち合わせている感情、それは懐かしむ思いや愛情、後悔などがにじみ出て、深く過去を思い返す時間を感じさせる。

人生という、その人にしかない物語。創作することへの希望と野心、そして暗転、迷走、呪縛と解放…「画家」という仕事に一生涯をかけた小川原脩のものがたりはとてもドラマチックである。この作品に描かれているのは、物語の終盤、老いた哀しみ、という単純な言葉で言い表せるものではないと思う。70歳の小川原は、この作品に、言葉にならない時の流れを込めたのだろう。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

—おしゃべりなカエルたち—

夜になるとニホンアマガエルの鳴き声が響き渡るようになりました。夏を感じると同時に、家の近辺で鳴かれるのは少し騒々しいため、「何がおもしろくて鳴くのだろうか？」と疑問に思う人もいるでしょう。

単純な生き物に見えるカエルですが、彼らが鳴く理由は大きく分けて3つあります。①繁殖・求愛、②縄張り争い、③警戒といった理由です。また、基本的に大きな声で鳴くのは、頬や喉に鳴嚢（めいのう）と呼ばれる大きく膨らむ膜を持つオスだけです、メスも時々鳴くことがわかっています。

いわゆるカエル語はごく一部しか解明されていませんが、カエルたちが鳴くのはカエル同士のコミュニケーションであることは確かなようです。外で鳴いているカエルたちは盛んにおしゃべりしているのです。

秋になり、うるさいと思っていたカエルの鳴き声が消えると少し寂しく、夏を懐かしく感じるはずです。今だけのにぎやかな夜を楽しみましょう。

文：上井 達矢（倶知安風土館 生涯学習専門員）

■第2回 ふるさと探訪 「クッチャン原野とドロノキ〜水と植物、利用の歴史をめぐる〜」

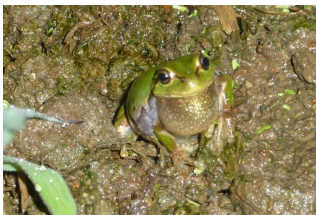
明治26年、倶知安町初の工場となるマッチ製軸工場が建てられました。今回は倶知安町の工業発祥の地と、マッチ材に使われたドロノキを軸に植物利用の歴史をめぐる。

講師：村上 尚美 氏（自然ガイドツアー心と〜cocowa〜 主宰） 日時：8月26日（土） 9時～12時

集合場所：倶知安風土館 定員：先着15名 申込方法：倶知安風土館へ（☎22-6631）

ふるさと探訪

412回



▲生命活動に欠かせない雨を感じとり活発に鳴くニホンアマガエル

展覧会のお知らせ

■常設展示

「小川原脩展 小川原脩ものがたり」

小川原脩は、明治から平成まで日本の激動の時代を、ひとりの画家として歩みました。本展では、常に新たな芸術潮流を感じ取りながら、自らの模倣はしないという意志を持って変容を続けた小川原脩の画業を、画家本人の言葉や写真とともに、ひとつの物語を読み進めるように紹介します。

会期：開催中～11月26日（日）

■企画展示

「しりべしミュージアムロード共同展『おしゃべり美術館』」

岩内・共和・倶知安・ニセコに点在する5つのミュージアムの共同企画展。美術と文学がそれぞれの分野にインスピレーションを与え合う密接な関係は、芸術の長い歴史の中でもしばしば見られました。作品に込められた物語や、作品にまつわるドラマを、各館の設けたサブテーマを基にさまざまな切り口からご紹介します。当館のサブテーマは「豊かなイメージ〜ものがたる絵」。

会期：開催中～9月24日（日）

■関連イベント

「しりべしミュージアムロード・コンサート2017 Musique de la passion ～情熱の調べ～」

出演：大島さゆりさん（フルート）・多川智子さん（ヴァイオリン）・亀岡三典さん（ギター）

日時：9月2日（土）11時～11時40分

会場：当館ロビー（無料）

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン アート探訪〈みて☆きいて〉5

「ゴッホ〜アルルのひまわり」

南フランスのアルルで、ゴッホは次々と傑作を生み出します。その中でもひときわ有名な「ひまわり」は何故描かれたのか。その背景を探りながら、ゴーギャンと暮らしたアルル時代を振り返ります。

日時：8月12日（土）14時～15時

お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム 聴講無料

■アート・シネマ館

「炎の人ゴッホ」1956年/122分/アメリカ（字幕）

橙色のひまわり、風に揺れる麦穂、白い葉が咲き誇る木々。ゴーギャンと共同生活を始めたアルルは、夢に満ちた新天地となるはずでした。一人の天才画家の苦悩と葛藤を名優が演じます。

日時：8月19日（土）14時～16時10分

お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム 聴講無料

■アート・トーク 「小川原脩この一点『広場』」

当館が所蔵する小川原脩コレクションは約700点。その中から展示されている一点を選び、学芸員が作品にまつわるお話をします。今回取り上げる作品は新境地を開いた中国旅行の作品。

日時：8月26日（土）14時～14時30分

お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館第2展示室（要観覧料）

★夏休み小中高生無料のお知らせ★

7月25日から8月31日まで、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。この夏休みにぜひ美術館へ！



小川原脩記念美術館 倶知安風土館

☎21-4141

☎22-6631

開館時間は9時～17時
（入館は16時30分まで）

8月の休館日

1日、8日、15日、22日、29日

美術館から

今年もまた「ミュージアムロード展」の季節を迎えました。後志管内5館の学芸員が知恵を振り絞って考えた16回目のタイトルは「おしゃべり美術館」。美術作品にさまざまな表現スタイルがあることはご存知の通り。カタチや色彩、線の流れ、リズムカルな構図など表現そのものを楽しむ作品がある一方で、今回の展覧会のように、一つの場面から想像力がドンドン膨らみ、物語を紡ぎだしたくなるような（おしゃべりな）作品もあります。

今回は、この豊かで素晴らしい景観に恵まれた後志地域を、5館の美術館・文学館巡りとともに堪能できる絶好の機会です。おまけに、各館には素敵なサプライズまで用意されているようですから。

館長 柴 勤